

水の都おおがき舟くだり・たらい舟



岐阜県 大垣市

特定非営利活動法人 大垣観光協会 / 大垣市



3 活動の成果や波及効果等

「たらい舟」に乗船できる観光地は新潟県佐渡市と大垣市のみであり、たらい舟による川下りを行うのは全国でもここだけであることは他の都市にはない個性であり、独自性を強調してPRを進めています。

中心市街地に位置する大垣城や「アニメの聖地」等との回遊性を持たせるため、スタンプラリーの開催や通行手形（特典つき共通入館券）販売など、多様な客層と滞在時間を増やす取り組みを展開しています。

乗船場と下船場を繋ぐ歩道に「奥の細道」で詠まれた句の句碑を整備しており、乗船体験後も「奥の細道」の世界観を感じながら、中心市街地を回遊できる仕組みとしています。

このように、滞在時間を増やし、中心市街地の回遊性を高めることにより、多くの観光客の誘客が実現できています。



水門川沿いに整備された「奥の細道」の句碑

「おあむ物語」の舞台となった大垣城と初代藩主・戸田氏鉄公

喜びの声



受賞者
特定非営利活動法人 大垣観光協会
会長 田中良幸

コメント
当協会は、「水の都大垣」「奥の細道むすびの地」を広くPRするため、この事業を実施しております。この度、このような素晴らしい賞を受賞できたことを大変喜ばしく思います。また、この事業実施にあたりご尽力いただいた関係各位にも深く感謝申し上げます。
今回の受賞に奢らず、さらに多くの方にお越しいただけるよう、安心安全の運航につとめてまいります。

活動の内容
・桜のライトアップ
・駅観光案内所の整備
・ボランティアガイド手配 など

活動の経緯
平成 15 年 水の都おおがきたらい舟開始
平成 23 年 水の都おおがき舟下り開始
平成 30 年 駅観光案内所移転・改装
以後、たらい舟 24 艘、舟 10 艘に
拡大し活動を継続中

1 社会資本の概要

岐阜県大垣市の中心地を流れる水門川は、かつての大垣城の外堀であり、国名勝「おくのほそ道の風景地 大垣船町川湊」にみられるとおり水運の拠点として栄える一方で、俳人・松尾芭蕉が「奥の細道」紀行を終えるなど、歴史的・文化的資源を有しています。

現在は、これらの魅力ある観光資源を誘客に結びつけるため、大垣観光協会と連携して、旅行会社、一般に向けたホームページ、SNS、リーフレットを作成し、情報発信しています。



大垣船町川湊と水門川

大垣市では、奥の細道むすびの地周辺を観光資源とするため、往時の姿を偲ばせるべく修景整備を行いました。

この結果、「おくのほそ道の風景地」として国名勝の指定を受けるとともに、「飛騨・美濃さくら 33 選」に選ばれ、桜の名所としても知られるまでに至りました。

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

水門川周辺は、水運が盛んな時期を物流の拠点として過ごしたことから、青果市場が置かれるなど観光地としては活用されてきませんでした。こうした中、大垣観光協会が主催するイベントにおいて、奥の細道紀行を終えた芭蕉が、友人との別れを惜しみながら伊勢に旅立つ様を再現した舟下りや、関ヶ原合戦の重要拠点であった大垣城を舞台として記された「おあむ物語」に由来する「たらい舟」による川下りを開催し、誘客を図るばかりではなく、郷土

の歴史を語り継ぎ、体験できる場としての地域資源として確立させるとともに、平成 23 年からは旅行商品として販売を開始しました。

また、モータリゼーションの進展や郊外型大規模店舗の立地による郊外化が進む中、平成 20 年の大垣市制 90 周年を契機として、中心市街地の活性化が図られる目的で、平成 24 年に奥の細道むすびの地記念館がオープンし、入館者が 170 万人 (R2.1 現在) に達しました。



奥の細道むすびの地記念館

舟くだり

たらい舟

所在地
岐阜県大垣市船町 2 丁目 26 - 1

活動主体及び連絡先
特定非営利活動法人 大垣観光協会 (0584-77-1535)

対象となる社会資本
一級河川 水門川
※管理者：岐阜県

手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編